

タイトル『汐製菓会社の新作の
マフィン』

登場人物

汐（しお）…30代。汐製菓会社の社長。「面白きことも無き世を面白く」が信条。快活な人物。

塩田（しおだ）…30代。汐の秘書。真面目で心配性だが、実はお菓子好き。

第一幕…開発会議の嵐

（汐製菓会社の会議室。大きなホワイトボードには「第91作目開発会議」と書かれている。汐が熱心にホワイトボードに絵を描いている。塩田はノートパソコンを持って、書き物をしている）

汐（自信満々に）…塩田！今回の新作は今までどれよりもすごいぞ。ついに、第91作目の発表ができるんだ。

塩田（少し疲れた声で）…またですか…。でも、スパイシーピーナッツ最中も驚きでしたし、次は何を考えてるんですか？

汐（誇らしげに）…今回はマフィンだ！しかも、ただのマフィンじゃない。ミートボール味のマフィンだ！

塩田（驚愕して）…え？ええ…。ミートボール…マフィンですか？それはスイーツじゃないですよね？食事用？

汐…その通り！今まで甘いマフィンしかなかっただろ？そこで、がつつりお腹にたまる食事としてのマフィンを作ろうってわけだ。これ、革命的だと思わないか？

塩田（戸惑って）…そもそも、ミートボールとマフィンが一緒に…その、味のバランスとか…。消費者がついてきますかね？

汐（熱くなって）…ついてくるとも！この前も言っただろ？俺たちは「普通」を作るんじゃない、誰も考えつかないものを作るんだ。革新だよ！

塩田（呆れつつ微笑んで）…また社長の飛躍したアイデアですね…。でも、お菓子が好きだからこそ、ちょっと興味があります…。

汐（目を輝かせて）…おお！やっぱりお前も分かっているじゃないか！じゃあ、さっそく試作だ！行こう！

（～人は試作室に向かう）

第二幕…試作の悪夢

（試作室。広いキッチンに材料が並べられている。汐と塩田がエプロンをつけて準備している）

汐（興奮して）…さあ、まずはミートボールを作って、次にマフィンの生地に混ぜ込むんだ！この肉とパンのハーモニーが絶妙だろうなあ…。

塩田（半信半疑で材料を混ぜながら）…普通は甘い生地にフルーツやナッツを混ぜるものですがどね…。これでうまくいくんですか？

汐（鼻歌を歌いながら）…大丈夫、大丈夫！見てろよ、ミートボールはどんな料理にも合うんだからな！

（汐が勢いよくミートボールを作り始める。塩田は慎重にマフィン生地を作る。しばらくして、二人はミートボールをマフィン生地に混ぜ込み、オーブンに入れる）

塩田（心配そうに）…これ、見た目が…ちょっと奇妙ですね。マフィンの中にゴツゴツしたミートボールが…まるで異次元の食べ物みたい。

汐（自信満々に）…大丈夫！大事なのは味だ！見た目なんかどうでもいい、食べてみればわかるさ！

（しばらくしてオーブンから香ばしい匂いが漂ってくるが、何かおかしい匂いも混じっている）

塩田（眉をひそめながら）…あれ、ちょっと匂いが強すぎませんか？焼けすぎたんでしょうか…。

汐（元気よく）…いや、これが肉の力だ！美味しそうじゃないか？

（タイマーが鳴り、人々がオーブンを開ける。出てきたマフィンは、見た目が大きく崩れ、形が不格好になっている）

塩田（目を丸くして）…ええっと…これは…マ
フィンの形を保ってないですね。

汐（やや戸惑いながら）…見た目は…まあまあ
だ。味が大事だ、味が！さ、食べてみよう！

塩田（困惑しながら一口食べる）…：…：うー
ん…ちよつと変わってますね…ミートボールの
肉汁が甘い生地と混ぜって、何とも言えない
…。

汐（強引に食べて笑顔を作る）…うまい！これ
は革命的だ！すぐにもプレゼンの準備をし
よう！さ、行くぞ！

塩田（ため息をつきながら）…本当にこれで大
丈夫なんでしょうか…。試食するのが怖いで
す…。

第三幕…国内外の反応

（汐製菓の新作発表会場。メディア関係者や国内外のバイヤーが集まっている。大きなスクリーンに「ミートボールマフィン」と書かれたスライドが映っている。会場は緊張感に包まれている）

汐（ステージでマイクを握って興奮気味に）…皆さん、今日はお集まりいただきありがとうございます！今回の新作は、これまでの常識を覆す、まったく新しいマフィンです！その名も、ミートボール味のマフィン！

（会場が一瞬静まり返る）

バイヤーA（日本人）…え？ミートボールの…マフィン？

バイヤーB（外国人・日本語で）…それは本当にお菓子ですか？食事じゃないの？

メディア関係者（日本人）…また汐社長の奇抜なアイデアか…。どんな味なのか想像もつかない…。

汐（自信満々に）…さあ、ぜひご試食ください！これが未来のマフィンです！食べた瞬間、目が覚めるような体験が待っています！

（スタッフがマフィンを配り、メディア関係者やバイヤーたちが恐る恐る手に取る。みんなが一口食べると、さまざまな表情が広がる）

バイヤー○（外国人・日本語で）…こ、これは…。

バイヤー□（日本人）…甘さとしよっぱさが混ざりすぎて…ちよつと複雑すぎるかも…。

（塩田が会場の隅で頭を抱えている）

塩田（つぶやきながら）…これは…完全に失敗かもしれない…。

(しかし、会場の後ろから一人の外国人バイヤーが大きな拍手を送りながら立ち上がる)

バイヤーM(ヨーロッパ風の外国人・日本語

で)…素晴らしい！こんなに斬新な味は初めてだ！これを輸入したい、すぐに契約を結びたい！

汐(驚きながら)…ほら見ろ、塩田！俺のアイディアは通用するんだよ！

バイヤーK(外国人・日本語)…うーん…クセがあるけど、売れそうだな。市場には新しい体験を求める人が多いし…。

バイヤーG(アジア系の外国人・日本語)…我が国でも、これ、意外とウケるかも…。

第四幕…世界的な反応と国内の冷たい

目

（数週間後、汐製菓のオフィス。新聞や雑誌がデスクに散らばり、どれも「ミートボールマフィン」が大きく取り上げられている）

塩田（新聞を手にして驚いた様子で）…社長！信じられない…！本当に海外で爆発的なヒットです！「新食感革命」なんて言われています！

汐（笑顔で胸を張りながら）…ほら、見たか！俺のアイデアは世界に通用するんだって、前から言ってただろう？革命を起こすのは常に異端なんだよ！

塩田（信じられないように）…でも、国内ではまだ冷たい反応が多いんです。日本の消費者には受け入れられるのに時間がかかるのかも…。

汐（軽く肩をすくめて）…まあ、国内市場なんてすぐに変わるさ。大事なのは世界的な成功

だ。次の商品で国内市場も引きつけられたいんだよ。

塩田（少し呆れながら）…次の商品って、まさか…また奇抜なものを考えてるんですか？

汐（ニヤリとしながら）…もちろんだとも！次はさらに挑戦的なものだ。今度の新作は、わさびシナモンロールだ！

塩田（驚愕して椅子から立ち上がる）…えっ！？ちよつと待ってください、それは流石に…わさびとシナモンですか？そんな組み合わせ、誰が…！

汐（自信満々に）…誰も考えたことがないからこそ、成功するんだ！誰も予想できない組み合わせこそが未来を切り開くんだよ！

塩田（大きくため息をつきながら）…またか…。でも、なんだかんだで社長のアイデア、売れてますからね。信じられないけど。

汐（笑いながら）…お前だって次の商品にワクワクしてるだろ？だからついてきてるんだ！

塩田（苦笑しつつ）…ワクワクというか…常にハラハラですけどね。でも、まあ社長の熱意には…感服しています。

（その時、オフィスに一人の国内の大手スーパーマーケットのバイヤーが訪れる。厳しい顔つきで汐と塩田の前に座る）

バイヤー（国内）…汐社長、今回はミートボールマフィンについてご相談がありました…。正直に申し上げますと、国内市場ではかなり苦戦しています。

汐（少し眉をひそめながら）…え？国内での販売が思ったほど進んでないんですか？でも、海外では爆発的なヒットだぞ！

バイヤー（国内）（慎重に）…そうですね。しかし、日本の消費者は特に伝統的な味に対し

て保守的でして…。このミートボールマフィン、味の方向性が極端すぎるとの声が多いんです。もっと親しみやすい商品が必要かと…。

塩田（小声で）…やっぱり…。国内では難しいんですね…。

汐（少し焦りを見せつつも自信を崩さないように）…いやいや、時間が経てば評価されるはずだ！常に新しいものは最初に拒絶されるもんなんだよ！

バイヤー（国内）（やや困惑して）…それは理解していますが、消費者の声を無視するのはリスクです。何か改良の余地を考えられませんか？

（汐はしばらく沈黙した後、思いついたように笑顔を浮かべる）

汐…わかった！なら、国内向けに少しアレンジを加えよう。*＊「照り焼きチキン味のマフィ

ン」**だ！これなら日本人にも親しみやすい
だろう？

塩田（驚きながら）…えっ！？またマフィンで
すか？しかも照り焼きチキン…？

バイヤー（国内）（目を丸くして）…それなら…
ひよっとすると日本の消費者にも受け入れら
れるかもしれません。甘じょっぱい味は人気が
ありますし…。

汐（得意げに）…よし、それでいこう！ミートボ
ールマフィンは海外展開、照り焼きチキンマフ
インは国内用だ！これでどちらも大成功だ！

塩田（笑いながら頭をかかえる）…もう本当に
次々とアイデアが出てきますね…社長の頭
の中はどうなってるんでしょう…。

汐（笑って）…次から次へと閃きが止まらない
んだよ！さあ、試作を始めよう！

第五幕…さらなる挑戦と未来

（数ヶ月後、汐製菓の本社。オフィスの壁には「照り焼きチキンマフィン 大ヒット」のポスターが飾られている）

塩田（手元の資料を見ながら）…信じられな
い…！社長、照り焼きチキンマフィンが国内
市場で大ヒットです！ついに国内の消費者に
も認められました！

汐（笑顔で手を叩きながら）…ほら見たか！
俺のアイデアは常に革新的で、世界に通用
するんだよ！時間の問題だっただけさ！

塩田（感慨深げに）…確かに…最初はどうな
るかと思いましたが、結果的には成功しま
したね。さすが社長です…。

（その時、海外からの電話がかかってくる。汐
が電話を取ると、相手は興奮した声で何か
を話している）

汐（電話越しに）…え？今度はドイツ市場でも売れてるって？すごいな！よし、次の出荷を増やしていこう！

（電話を切った後、満足げに椅子に座る）

塩田（驚きながら）…本当にすごいですね。社長のアイデア、世界中で評価されてるんですから…。

汐（笑いながら）…そうだろう？だから、次も期待してくれよ。次は…トリュフカレー味のロールケーキだ！

塩田（目を丸くして）…またそんな大胆な組み合わせを…。もう止めても無駄ですね…。

汐（自信満々に）…革新とは、常に挑戦なんだよ、塩田！誰も想像しない未来を作るのが俺たちの仕事だ！

塩田（苦笑しながら）…はいはい、わかりましたよ…。でも、社長の挑戦、どこまで続くんでしょうね。

（2人の笑い声が響き渡り、オフィスの窓から見える景色は晴れやかに広がる）

〽️ 終わり 〽️